

「溪谷光彩」

写真
撮影地：菊池溪谷（熊本県）

渡辺 守

Mamoru Watanabe

1984 修猷館高等学校卒業
1988 九州大学理学部卒業
1988 日本電信電話株式会社入社
現在はNTTコミュニケーションズ勤務
修猷時代は物理部に所属し天体写真を撮影。大学在学中にはハレー彗星撮影のためニュージーランド遠征。その後は撮影対象を広げ、風景写真などに力を入れている

賞歴（入賞・入選）
二科会写真部展（二科展）
日本写真家協会（JPS）展
日本の自然写真コンテスト（朝日新聞社）
富士フィルムフォトコンテスト等



題字・箱島信一書
発行 修猷館同窓会
東京支部事務局

〒185-0034
東京都国分寺市光町 2-14-85
(有)パルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
<http://www.shuyu.gr.jp>

今年こそ！



東京修猷会副会長
大須賀 頼彦
(昭和37年卒)

明けましておめでとございます。

平成23年という新しい年を、館友の皆さまも健かに、そして新たな気持ちでお迎えのことと思います。年の初めが来るたびに、「今年こそは」といつも願うものですが、私は、今年のお正月ほどその思いが強い年はありません。皆さんはいかがでしょう。

中国の古詩の一節に、「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」という故事があります。

「花は毎年同じように咲くが、人の身の上は毎年変わって同じではない」というのが直接的な意味ですが、もう少し広く捉えて「天の動き、大自然というものはいつの世も変わることなく、規則正しく春夏秋冬が巡りくるものだが、一方、人の世、人間社会というものは常に変化、変転し、決して同じというものは無い」と解することも出来ます。

1年前の正月には、その前の年(2009年)にアメリカで初の黒人大統領が登場し「チェンジ」と叫び、また、我が日本では、半世紀続いた自民党政権に代わり、「友愛」や「コンクリートから人へ」などをキャッチフレーズとする民主党鳩山政権が誕生したのを受けて、リーマンショックの不景気の真っ只中にもかかわらず、何か明るい期待と希望を感じさせる年明けだったように記憶しています。

ところが現実には、アメリカでは景気の回復が進まず、オバマ大統領の人氣は大きく落ち込み、来年の再選も危ない状況です。また、わが国では、鳩山総理が沖縄の基地問題に火をつけたまま僅か9カ月で退任し、後を受けた菅内閣は方針や姿勢がはっきりせず、党内の主導権争いに振り回されるなど、課題解決の糸口さえ

見えてきません。今の日本に必要なのは、将来に向けての骨太の方針です。

期待が大きければ大きいほど、裏切られたときの落胆も大きくなるのは当然ですが、人の世というのは、このようなことが常なのかもしれません。

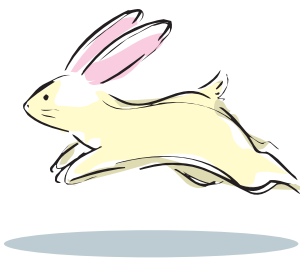
昨年を振り返れば、政治面だけでなく、広く経済面や社会面など全体を通して、明るい話題はノーベル化学賞の日本人受賞くらいで、「閉塞感」が強く残った1年ではなかったでしょうか。そしてその思いが、「今年こそ！」という強い願いに結びつくのでしょうか。

さて、こういう世相だからか、昨今のテレビドラマでは坂本龍馬や秋山好古・真之兄弟、また白洲次郎の物語などが高い視聴率をあげていましたが、そこには私は、多くの日本人の心に「英雄待望論」みたいなものが起きてきているのではないかと感じています。すなわち、閉塞感を打ち破る、行動力のある強いリーダー的人物の出現を期待するという気持ちです。

日本を変える、世界を動かす、そういうスケールの大きい政治家、経済人、医者や学者などの知識人、さらには文化人や芸術家、またスポーツ選手など、今のようない閉塞感の強い社会では、そういう人物の存在が国民の気持ちを大きく、前向きに、そして明るくもするものです。

修猷に学び、館歌に「海の内外陸の涯 皇国のために世の為に 尽くす館友幾多」と歌った館友諸氏の中には、そういうスケールの大きい人物が過去にも何人か出ていますが、今こそそういう人が出てきて欲しい、輩出して欲しい、そして長いデフレ社会で、縮み思考と閉塞感が広がった今の日本を、何とかして欲しいと願わずにはおられません。

改めて、今年が本場に良い年になりますように願いますとともに、東京修猷会のさらなる発展と、館友の皆さまのご健勝、ご活躍をお祈りしまして、新春のご挨拶といたします。



東京修猷会〇二〇年活動スケジュール

二木会は6、8月を除く
毎月第二木曜日開催

1月 会報発行 正月に全会員に送付

2月 二木会 於：学士会館

3月 二木会 於：学士会館

4月 二木会 於：学士会館
春季常任幹事会

5月 二木会 於：学士会館

6月 二木会 於：学士会館

7月 二木会 於：学士会館

8月 二木会 於：学士会館

9月 二木会 於：学士会館

10月 二木会 於：学士会館

11月 二木会 於：学士会館

12月 二木会 於：学士会館

2010年9月より二木会の運営方法が変更となっております。会場内での食事が無くなり、午後7時からの講演のみとなりました。なお、講演前に学士会館内の指定されたレストランで特別料金にて軽食を取ることができます。

「今々に伝える、今を伝える」

2010年度東京修猷会総会

いま手元に一枚の写真を置いてこの原稿を書いている。総会終了後の打ち上げに同期で撮った記念写真だ。東京・福岡をはじめ全国各地から、また海外から107名の仲間がこの日のために集まった。忙しいなか互いに協力し合いながらやり遂げた達成感が、それぞれの笑顔に満ち溢れている。一生の宝物となる一枚である。

母校への愛着や思い出分かち合える場

2010年度東京修猷会総会は、6月4日(金)ホテルオークラで開催された。私たち昭和59年卒・悟空会が幹事学年として活動を開始したのは、総会前年の1月のことだった。何から手をつけたらいいのか分からないなか、まず自分たちがどのような総会にしたいかということから議論を始めた。世代を超えた交流の輪が広がっていく場にしてほしいというのが、私たちの共通の思いだった。テーマは、「今々に伝える、今を伝える」と決めた。修猷の昔を知らない若い世代から修猷の今を知らない先輩の世代まで一堂に集い、母校への愛着や思い出を分かち合える場にしたという願いを、このテーマに込めた。

恩師紹介ではこのテーマを意識しつつ、深江久嗣先生(体育・教頭)・北崎純一先生(数学)・安部規子先生(英語)をお招きした。深江先生には、生徒・教諭・教頭として在籍された想い出を懐かしく振り返っていただいた。着任されて11年目を迎える北崎先生には、副部長を務める野球部の活躍を中心に、今の修猷を語っていただいた。また安部先生からは、ご自身の研究テーマである「修猷の明治時代の英語教育」を講演していただいた。



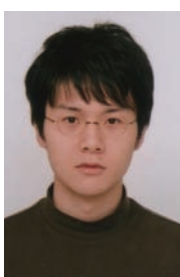
館歌、応援歌の美しいメドレーに会場はひとつになる

懇親会は、テノール歌手である森田澄夫先輩(昭和41年卒)の指揮・監修のもと、合唱部OB・OGの皆さんを中心に結成された「スペシャル合唱団」による「修猷讃歌」で幕を開けた。230年近くにも、就職イベント



伝統生かし就活学生を応援

私は高校時代合唱部だった。大学に入り、合唱から遠のいて何か物足りなさを感じていたが、二木会で偶然知り合った合唱部の先輩から、総会での合唱企画に参加しないかと誘われた。私にとっては願ったりかなったりで、その場で参加を決めた。本番までに練習は3回(！)しか行われなかった。不安に思いつつも、それ以上に修猷と



修猷とつながる喜び感じて

合唱企画に参加して

私は高校時代合唱部だった。大学に入り、合唱から遠のいて何か物足りなさを感じていたが、二木会で偶然知り合った合唱部の先輩から、総会での合唱企画に参加しないかと誘われた。私にとっては願ったりかなったりで、その場で参加を決めた。本番までに練習は3回(！)しか行われなかった。不安に思いつつも、それ以上に修猷と

この総会企画を機に、東京での合唱部OB会が組織された。今回のような大きな舞台で歌えることは良いことだが、細々とも皆で歌えることができた。それもいい、と私は思っている。今回の合唱を通じて、私はやっぱり歌うことが好きなんだ、そう思わされた。

土師 直人(平成19年卒)

世代を超えてつなげ

学生のための企業・業界研究応援



若し世代を総会に呼びたいという思いと、厳しい就職環境で戦うカワイイ後輩を助けたいという思いから立ち上がった当企画。すぐに悟空会の面々も賛同し、執行部の方々には「いい企画と背中を押していただいた。よし！」と気合いが入った。し

及ぶ修猷の歴史と精神を今に伝え、未来に歌い継がれていく館歌・応援歌の美しいメドレーは、会場をひとつにしていた。感動的な歌声に、割れんばかりの拍手と歓声が沸き起こった。乾杯では、卒業したばかりの新入会員約20名が壇上に上がり、昭和12年卒の宮川一二先輩から力強いご発声をお願いした。世代の広がりを感じた。この集計結果を基に製作した映像を上映した。時代と共に変わっていく

行く西新と、時代を経ても変わらない西新の様子が上映された。それぞれの記憶に照らしつつ楽しんでいただけたなら、担当者も、楽しく充実した日々だったと思う。何度か幹事でも集まって遅くまで熱く議論し、飲み明かしたこと、連日おびただしい数のメールを飛び交わせてやり取りしたことなど、そのどれもが懐かしく愛おしい思い出である。卒業から26年経って、この総会を機にまた新しい形で繋がった同期の絆を、いつまでも大切にしていきたい。

私たちが幹事学年の大役を務めた。私たちが幹事学年の大役を務めた。私たちが幹事学年の大役を務めた。

しかし、修猷の精神を世代を超えてつなぐ一助になれたという手ごたえはある。そして、他に例をみない修猷という価値が、次代にも輝いてほしいと深く感じる経験となった。

中山 尚美(昭和59年卒)



多くの館友に囲まれて

東京修猷会2011年度総会のご案内

テーマ:「プレイバック!修猷」

6.3

今年は第1金曜日

2011年6月3日(金) 17:30よりホテルオークラ東京 別館地下2階アスコットホール

※開催時間が17:30となっておりますのでご注意ください

幹事学年:猷馬会(昭和60年卒)

「西新“今”に伝える“今”を伝える」ランキング

| ランク | 店・スポット | 出演者(敬称略) | 備考 |
|-----|-------------|----------------|--|
| 1位 | 修猷館高校 | 亀岡靖(館長) 他 | 修学旅行の見送りに親御さんが大勢押しかけているのにびっくり。資料館をはじめ校内の映像があまり見えなかったのが残念。 |
| 2位 | 珈琲伊藤 | 伊藤康男(マスター) 他 | 厳しさの中にも、修猷生への愛情あふれるマスターの言葉に思わずほろり。名物のホットサンドは今なお健在。 |
| 3位 | 百道浜 | 脇岡智彦(平成20年卒) 他 | 世代を超えた青春の思い出の場。しかし、今や「浜」と言うよりは、「ビーチ」と呼んだほうがふさわしい。 |
| 4位 | 蜂楽饅頭 | 松下滋(本店店長) 他 | 蜂楽を買い求める客の列は相変わらず。しかし、高校生や大学生の姿はあまり見当たらない。 |
| 5位 | しばらく(現在は閉店) | 中野大樹(本店店長) 他 | 昼時、夕方は相変わらず満席の盛況ぶり。但し、価格競争も激しく、いまやなじみのしばらくもブランド化。 |
| 6位 | むっちゃん万十 | 徳山寛章(西新店店長) 他 | 若い世代から圧倒的な支持。黒あん・白あんよりもハムエッグが人気、というところが、蜂楽と違うところ。むしろハンバーガー感覚? |
| 7位 | ひさご | 下野豊(店長) 他 | はとや通りの火災から神松寺、そして次郎丸へ。話好きの大將、ピリッとするソース、コクのあるマヨネーズ。20数年ぶりの再会に涙。 |
| 8位 | 吉村文具店 | 吉村雄二(店長) 他 | あふれ出る修猷生への愛が止まらない、といった感のある店長。昔を懐かしむことしきりで、OBとしては複雑な思い。 |
| 9位 | 西新商店街 | | リヤカー部隊の組合の会長さんはワンセグを駆使し、MLBも観るといふ豪快なお母さん。この道50年というから頭が下がる。 |
| 10位 | ダンケ | 樋口大四郎(店長) 他 | 他愛のない無駄話で何時間も居座った2階も今はひっそり。往年のファンが変わらぬ味を求めて、今も通い続ける。 |



「西新といえばランキング」ができるまで
 温かく見守ってくれる
 街に感謝

高濱 巖(昭和59年卒)

投票によるランキングではあつたものの、開票を待たずとも、上

実行委員会の面々からの督促に抗し切れず、家庭用ビデオ片手にロケハンをかねて福岡へ飛んだのは4月中旬である。

生来の私の泥縄体質も手伝って、ゴールデンウィーク直前まで、手付かずの状態だった。実行委員会の面々からの督促に抗し切れず、家庭用ビデオ片手にロケハンをかねて福岡へ飛んだのは4月中旬である。

つながる館友ーまち・文化・スポーツ

総会向けに「西新と云えば、何を思い出すか?」というテーマで映像を作ってみてはどうだろうか、という提案は、企画というよりは思いつきに近いものだった。指摘されるまでもなく、土曜の某民放局の番組の模倣ではあるものの、内容のわかりやすさや、参加者の興味度、何よりも「今」に伝える、「今」を伝える」というテーマとの相性も良い、ということ、これと言った反論もないまま採用が決定、



修猷生を感じる懐かしさを伝える「ひさご」の下野夫妻。写真は元気な笑顔みせる「ひさご」の下野夫妻

位にくるものは大体見当がつく。「しばらく」や「珈琲伊藤」、「吉村文具店」や「蜂楽饅頭」は鉄板として、それ以外に何がくるのか、という点がギリギリまで読めず、最後まで全体構成をまとめるのに苦労した。

計3回の福岡ロケを経た後、テレビ局勤務の頼もしい同期(松岡烈、光武計幸、山下環)の献身的な支援にも助けられ、正味12分間の本番素材が出来上がったのは会当日の明け方であった。取材先で収録した映像はのべ5時間にも及んだが、採用できる箇所はほんのわずか。映像コンテンツの悲しい宿命である。

を経て、相応に古びてしまったもの、いまだに活況を呈しているもの、さまざまだが、今、本当に大人になったわれわれが、大いなる恩恵を受けたこの街に謝らねばならない。何かならうか。風景のすっかり変わってしまった脇山口のバス停に独り佇み、そんな思いに駆られたのだ。

不惑を過ぎた身からすれば、高校生などまだほんの子供なのだが、多くの修猷生がそうであったように、私も、当時は世の中のことも半分かろうな顔をして西新の街を闊歩していたように思う。実際には大人の世界



若い世代から支持高いむっちゃん万十



学生の活気とともに賑わいのある西新商店街

卒業生が営むBAR

総会の映像企画でも紹介したお店をあらためてご案内します。

- BAR 8・8 (渋谷区桜丘町2-8 志水ビル3F、☎03-3780-2488)
- バーボンとシングルモルトのボトルキーブが中心の隠れ家的大人のバー。昭和53年卒の徳本りえさんが経営しています。桜並木の道に面しており、春には窓から夜桜も楽しめます。修猷以外にも福岡の他校出身者も多く来店するなど、博多弁で飲めるBAR。

ゴプリン(港区西麻布2-19 コート麻布2F、☎03-5466-7728)

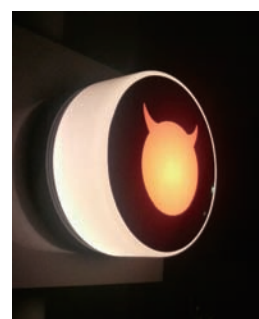
鬼塚茂嘉さん(昭和59年卒)と杉山明日香さん(平成6年卒)のワインバー&レストラン。最高のワインと熟成チーズのマリアージュを求めて、夜な夜な修猷館OB、OGが集まります。お店は西麻布交差点の近くにあり、



番外編

■神田さんくす 居酒屋九州(千代田区一ツ橋2-3-1 小学館ビルB1、☎03-3264-4826)

OBの店ではありませんが、東京修猷会が毎月開催している「二木会」の2次会会場になっている店です。この日は修猷卒業生の貸し切り状態になり、修猷魂を感じる熱い会話があちこちで練り広げられます。



残暑厳しい2010年9月4日(土)の午後、100名を超える館友並びにご家族の皆様にご来場いただき、第4回サロン・修猷が学士会館にて開催された。

今回は、群馬交響楽団においてフルート奏者として活躍中の白水裕憲氏(昭和58年卒)と、同交響楽団のメンバーによるフルート四重奏をお楽しみいただいた。第1部では、モーツァルトのフルート四重奏曲をはじめとするモーツァルトの楽曲を通じ、正統派クラシック音楽を堪能。一方第2部は、日本の伝統音楽、アニ

＊Salon de 修猷＊
 第4回
 「フルートと弦楽器で奏でる小さな管弦楽」

MEMO: ジックから映画音楽に至る幅広い選曲で、子供から大人まで誰もが楽しめる、フルート四重奏の新しい魅力満点の素晴らしいコンサートとなった。

また、白水氏と同じ58年卒の武田京氏演奏によるアイリッシュフルートとの共演が、同窓会という場で四半世紀ぶりに実現。お二人の3年生当時の「恩師」水崎雄文先生にご来場いた

だくというサブライズもあり、会場は懐かしさも温かい雰囲気にも包まれ、「同窓会らしい企画であった」と、多くの方々に好評をいただいた。

最後にアンコール曲として「少年時代」のメロディーが流れると、修猷館時代の懐かしい情景を思い浮かべながら、歌詞を口ずさむ姿が会場内のあちこちから見受けられ、感動的なフィナーレを迎えたのだ。

後日、白水氏・武田氏より「9月4日は、私たちそれぞれが、それぞれの人生を振り返り、それぞれの人生を見直す貴重な再会



井手 敏喜(昭和58年卒)



新ペリア方式によりスコアを集計した結果、優勝は田中昭人さん(昭和56年卒)、準優勝は亀田貴志さん(昭和59年卒)、3位は西岡修さん(昭和57年卒)となりました。田中さんはクロス85で見事男子のベストクロスダブル受賞、また女子のベストクロスは前回に続き松岡郁子さん(昭和56年卒)が93のスコアで連続受賞されました。

今回も参加された方々はもとより、残念ながらご参加頂けなかった野上三男相談役(昭和20年卒)からも数多くの豪華な賞品を頂きました。皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ラウンド後の表彰式・パーティーでは富士山麓特有の芝目の凄さを振り返りながら、先輩後輩の間でゴルフ談議に花が咲きました。

次回は、2011年4月17日(日)、千葉・茨城方面での開催を予定しております。皆様奮ってのご参加を宜しくお願い致します。

二木会ゴルフ幹事
 山下 環(昭和59年卒)

第二十七回東京修猷会二木会ゴルフコンペ

2010年10月17日(日)、大須賀頼彦副会長のご厚意により名門「富士小山ゴルフクラブ」(静岡県駿東郡)において、恒例の二木会ゴルフコンペを開催いたしました。

当日は事前の悪天候予報を箱島信一会長、大須賀副会長、土肥研一幹事長をはじめとした参加者全員の思い(気合い)で吹き飛ばし、好天のもと総勢9組・36名の大所帯で、大変楽しくラウンドすることが出来ました。

「常磐の松の百道原」と館歌に歌われる白砂青松の松原は、博多湾ではもう生の松原にしか残っていませんが、百道と並ぶ箱崎松原を覚えておられる方も多いかと思います。この箱崎松原を拓いて100年前に設立されたのが九州大学です。修猷の卒業生が最も多く進学したのが九大で、九大へ最も多くの卒業生を送り込んで来たのが修猷だと思います。

1911年、東京、京都、東北に次ぐ4番目の帝国大学として創設されました。九州で最大の国立総合大学として、これまでに多くの人材を国内外に送り出してきました。九大の存在が、その後の福岡の発展に大きな影響を与えた事は、当時誘致を競った熊本との都市としての実力差でも明らかだと思います。

記念式典など多くの記念事業を計画しています。最も大きな事業が、百周年記念

九州大学創立百周年に向けて

九州大学 理事・副学長
安浦 寛人 (昭和47年卒)

業が、百周年記念募金事業です。東京修猷会の皆様方にも、個人的あるいはご所属組織を通じてご協力をお願いしていることと存じます。しかし、折からの経済不況などとも重なり、かなりの苦戦を強いられています。

その最大の要因は、同窓会組織の弱さです。修猷の同窓会には燃えても、九大の同窓会には燃える方々が少ないというのが実感です。一昨年の修猷大同窓会には、失礼



どんたくにて

にも参加するなど、都市とともに栄え、市民の誇りと頼りになる大学を目指しています。現在、九大は福岡市西部の糸島半島に統合移転を進めています。すでに、六本松地区と箱崎の工学系・数学系が移転し、伊都キャンパスは1万2千人の学生・教職員が活動する

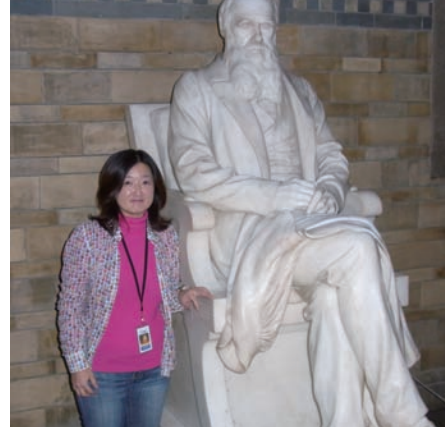
「しろあり」と聞くと皆さんは「家を食べてしまう大害虫」という悪いイメージをお持ちでしょう。しかし、ちよつと視点を変えて、「家を食べる」という意味を考えてみてください。木造家屋つまり「枯れた木」を食べてしまうシロアリは、森の中では落ち葉や倒木を食べるといこととです。森林では落ち葉や倒木がそのまま残ってしまうことはなく、昆虫やキノコなどの菌類が腐らせて分解し、土に還してくれます。この役割は、日本のような温帯では主に菌類が担っていますが、熱帯雨林ではシロアリが大きな役割を果たしています。シロアリが活発に活動している熱帯雨林は、物質循環が滞りなく進み、健全な森林であるといえます。

シロアリが地球温暖化を食い止める?!

山口大学農学部准教授
竹松 葉子 (昭和59年卒)

現在、地球温暖化が進み、その原因である二酸化炭素の増加が問題になっていきます。CO₂も名古屋で開催されました。二酸化炭素が増加している要因の一つに、その最大の吸収源である熱帯雨林の急速な減少があげられます。私たちは熱帯雨林の減少を食い止めなければなりません。熱帯雨林の保護の第一歩は、その現状を知ることです。現在、熱帯雨林の状態を様々な生物の様子から評価する方法の開発が進められています。その方法のひとつに、熱帯雨林

の維持に必要なシロアリを利用しての評価法があげられます。つまり、「どのシロアリがどのくらい生息するかを調べて熱帯雨林の健全度の目安にする」というものです。私は現在、ロンドン自然史博物館に遊学中です。ここには世界中のシロアリの標本が集積されており、世界中の森林でシロアリの多様性を調査し、その情報集約がなされています。私は東南アジア熱帯雨林での調査をしており、そこでわかったことは、いったん森林伐採してしまつた土地に木を植



ロンドン自然史博物館のダーウィン像と筆者

館友時評

この仕事をしていると、現場の重要性を痛感します。微妙な地形の凹凸から電波混信の有無を予想し、無駄がない芸術品のような送信所の置局計画を作成が完了しています。

基本計画策定から足かけ38年という長い歳月をかけた九州新幹線が今年の3月12日に開業を迎える。これにより博多〜鹿児島中央間は2時間20分短縮され、1時間20分で結ばれる。同時に開業する新博多駅ビルと合わせた経済効果は年間5000億円とも試算され、昨今の不景気もあり地元の寄せる期待は非常に大きい。

私は、JR九州で鉄道インフラ関係の整備を担当している。新幹線の建設は国と地元自治体が費用負担しているため、駅やその周辺の整備にあつては連携して整備を進めていかなければならない。新幹線新駅の隣に在来線の駅が欲しいとか、駅前広場を広げたいとか、地元自治体からの要望は多岐に亘りし

バリアフリー、ランドマーク機能、防災拠点機能など様々な視点から検討する必要がある。これも、まさに修猷在学中に学んだ「物事は常に大局から見ると役に立っている。在学中の私のことを知る方は、「あいつがそんな仕事を!?」世の中も変わったなあ」と思われるかもしれないが、九州新幹線と新博多駅ビルの開業はそのくらい劇的な変化を、福岡を中心とした九州にもたらすと言えは分かりやすいだろうか(笑)。当社にいる30名すべての卒業生はこのように修猷館在学中に学んだことを糧に

地デジ完全移行の年を迎えて

総務省大臣官房審議官
福田 修一 (昭和48年卒)

地デジ化を促進するため、エコポイントや各種助成制度を導入しています。全国の都道府県に地デジ化を支援する組織(デジサポ)を設置し、受信状況の調査、説明会・相談会の開催、助成金交付などの業務を行っています。総務省における私の仕事は、これら地デジ化施策の企画立案、それと各種作業の進捗管理です。



阪神タイガース地デジカナイター記者発表時の筆者(中央)。写真右は越智・読賣テレビ社長

現場にはさまざまな課題がありますが、同時にその解決策もあります。大きな失敗を避けるには、時には酒を酌み交わし、現場の知恵を速やかに施策に取り込むことが必要です。若い人が少ないのが気がかりですが、現場の人たちの努力に支えられ未来につながるプロジェクトは進んでいます。

ぼっぼや しゅうゆうスピリット
鉄道屋の中の修猷魂~九州新幹線全線開業によせて
九州旅客鉄道 中島 英明 (昭和60年卒)

然ながら、地域景観に合うデザイン、街の発展に貢献できるか、造るというのには当



新幹線と筆者

中国蘇州に赴任して5年が経ちました。仕事は印刷用アルミ加工品(P.S版)の新工場立ち上げ。富士フィルムは、従来から印刷用材料に力を入れており、蘇州工場は、世界で5番目のP.S版工場として2007年から稼働を開始しました。折からの中国の発展に乗って、出荷数量は計画以上に伸びましたが、管理部門を預かる私の前に難題が待ち受けていました。そうです。「資金繰りの悪化」です。

中国蘇州に赴任して

富士フィルム 高岸 信哉 (昭和50年卒)

経営計画でも運転資金は本社からの借入で賄うスキームでしたが、あまりに急激な立ち上げとなったため、原材料の支払額が収入を大きく上回ってしまつたのです。そのため、本社からの追加借入だけでは間に合わず、地場銀行からの短期融資、原材料の支払サイトの延長、商業手形の発行とあらゆる資金繰り改善策を模索し、何とか会社を継続してきました。それからリーマンショックによる一時の落ち込み、10年2月には労働者によるサボタージュも経験しました。蘇州の労働者は大部分が地方からの出稼ぎ(いわゆる農民工)で、人件費は日本の10分の1以下です。



私生活では、日本以上に同窓との繋がりがあります。修猷館卒では、森永製菓の福寺先輩(昭和43年卒)やコーセーの長浜先輩(昭和47年卒)と家族ぐるみでお付き合いをしていただき、なんとなく会一行をお迎えしたこともあります。また大学の同窓ゴルフも盛んで、六大学対抗や帝大戦に参加し、人脈を拡げつつ、異国での生活をエンジョイしています。

世界の高校生らが数学の実力を競う「国際数学オリンピック」を競う「国際数学オリムピック」。

数学五輪への挑戦

東野 克哉 (3年生)

選、本選を通過。昨春の日本代表選抜合宿に招待された。惜しくも第51回大会(カザフスタン大会)の代表6人の座は逃したが、極めて高い実力が証明されたことになる。東野君に

Q インタビューした。数学オリムピックを目指した経緯は？
A 最初は受験対策で数学研究部に入りましたが、次第に数学オリムピックに興味を抱き、没頭するようになっていきました。

Q 東野君にとって数学の面白さは？
A 数学研究部の仲間と互いの解答をネタに、その発展性や拡張などを議論するのが一番楽しかったです。

Q 将来の夢は？
A 物理、理論物理学の分野で

Q 今回の感想は？
A まずは国内予選突破を目指していたので(選抜合宿参加は)想定外でした。合宿では力を十分に出し切れたと思います。

Q 合宿はいかがでしたか？
A 皆、興味のある分野を勉強しており、刺激を受けました。私自身、合宿を通してガロア理論や群論に触れ、新たに勉強しました。

Q 世界を相手に活躍できるような仕事をしたいです。
A 多方面で活躍している修猷OBは数知れないが、とりわけ自然科学分野でその才能を開花させた東野君のような後輩の存在は頼もしい限りだ。今後の活躍をぜひ期待したい。

世界をつなぐ 世代をつなぐ

伊藤忠商事の食料部隊に勤務、拡大するインド内需ビジネス模索のためムンバイに赴任して早3年が経ちました。ビジネスは勿論のこと、プライベートでもたっぷりインドカルチャーの洗礼を受けています。

ビジネスもゴルフも気の抜けないインド

伊藤忠商事 中野 和真 (昭和59年卒)

上がるまでに、足の裏で掴みこんでカップに入れた可能性があのです。目的は、ホールインワンの祝儀。もう1回は、ティールグラウンドからカップインがはつきり見えた粉れもないホールインワンでしたが、突然、隣ホールから無関係のキャディが駆け寄り、「サル(Sir)の意、誰が猿やねん、入ったね。おめでと。バックシシ(お布施)頂戴」という具合で、油断も隙もありません。

目を離した隙にボールを啜えて飛び去ろうとするカラス、フェアウェイを優雅に横切る孔雀、ラフにてコンニチハなコブラ等、およそゴルフとは無関係なアニマルハザードで盛りです。インドでのビジネス環境はこのゴルフのように気の抜けない厳しさ(?)ですが、キャディに負けないくらい厚かましきで頑張っている毎日です。

日本が今年封切りとなる映画「ウォール街」続編ながら、近年米国は百年に一度と言われた金融危機を経験しました。投資銀行の破綻や吸収合併は大量の金を投入して金融機関・企業の救済に走りまわりました。そしてその後の米国議会は、アメリカ株式会社に変貌。救済した国営セネラル・モーターズを立て直すのにトヨタ社長を議会でバッシング。まさに国を挙げての日本車追い落としでした。

対照的に中国は独自の計画経済で躍進。今や世界第2位の国内総生産を誇り、世界一の米国債券保有国。その経済力を背景に米国の通商・為替政策を批判しています。これは同じ立場だつ

た1980年代の日本には全く無かった事です。翻って今の日本は米中両大国の狭間であまりにも萎縮しすぎている。失われた10年、15年と言われて久しかりますが、今こそ国際社会に対して日本からのメッセージを発信する時だと考えます。米

より夏休みに選抜生をニューヨークに受け入れ、同窓生との交流の場を提供していることは利用した災害対策、環境モニタリング、資源管理などの協力を進めてきました。また、JAXAは文部科学省との共催で、「アジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)」を毎年開催し、各国の宇宙機関とともにアジアにおける宇宙開発利用協力プロジェクトを実施しています。さらに、アジア工科大学の協力を得て、アジア各国の行政機関職員等を対象に、地球観測衛星データの解析・利用に関する研修も行っています。

こうした仕事を通じ、各国の人々が自国の未来のために宇宙開発利用に取り組み熱意と日本の協力に対する期待を痛感しています。修猷の多くの先

アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF) とは、93年に設立されたアジア太平洋地域における宇宙国際協力の枠組み。30以上の国の宇宙機関、研究機関、民間企業など、20弱の国際機関が参加。具体的なプロジェクトとしては、国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」を利用した宇宙環境利用実験、地球観測、宇宙教育分野での協力などがある。防災対策のための人工衛星データの提供、人工衛星による環境モニタリングも実施

アジアとの宇宙開発利用協力

JAXA 水元 伸一 (昭和59年卒)

私は、08年7月に宇宙航空研究開発機構(JAXA)バンコク駐在員事務所に赴任し、以来、日本と東南アジア・南アジア各国との宇宙開発利用協力を携わっています。

JAXAはアジアとの協力を力を入れており、私もタイを含む14カ国を訪問し、人工衛星を



アジア工科大学にて、各国の研修生ほかと。(最上段左端が筆者)

「微笑みの国」、タイ。タイ人の優しさに心を癒される外国人も多い。一方で、こうした悲惨な事態が起きる。バンコクの自宅のアパートから衝突が起きて

いる一帯を眺めながら、タイの国民性、指導者のあり方、教育と社会的格差の是正の必要性を考えた。

輩方が、国際的に活躍されています。先日、「最近の日本の青年は、留学や海外での仕事に挑戦しない傾向にある」とのニュアスを耳にしましたが、若い世代の卒業生、在校生の皆さんには、是非、語学力、国際感覚、そして人間性を培い、世界を舞台に活躍していただきたいと願っています。

た1980年代の日本には全く無かった事です。翻って今の日本は米中両大国の狭間であまりにも萎縮しすぎている。失われた10年、15年と言われて久しかりますが、今こそ国際社会に対して日本からのメッセージを発信する時だと考えます。米



時のひと

—カッティングエッジ—

WIRED CAFE (ワイアードカフェ)をはじめ東京、関西に47店舗(2010年12月現在)のカフェを展開、昨年9月には銀座三越に「JA全農とのコラボ店」「みりのカフェ」「みりの食堂」を出店するなど、カフェを通じたコミュニティにこだわって「カフェ・カンパニー」社長、楠本修二郎氏にインタビューしました。

カフェは地域社会のコミュニティインフラ

カフェ・カンパニー(株)社長 楠本 修二郎 (昭和58年卒)



CAFEは「Community Access For Everyone」と語る楠本さん

「150年目の開国の時」という人もいるほど、今は大きく産業構造の変革が起きようとしています。こういう時代だからこそ個々が生きてきた原風景を精神性・審美眼や感性など具体的にライフスタイルに落とし込む創造力が期待されています。政治家がライフスタイルを語り、経済人が教育を語る。そんな社会になれば日本の生活文化を世界に誇れるものになることができます。今後の日本や世界のあり方を決める重要な時期に、諸先輩方、後輩たちとともに力強いリーダーシップを発揮したい

100マイルカフェプロジェクトのフラッグシップ店舗である「PUBLIC HOUSE」。

コンセプトはパブリックスペースの再生。料理の食材は100マイル以内でとれたローカルフードというこだわり。単なる「地産地消」にとどまらない今後の展開が楽しみなお店です。

(JR 渋谷駅 新南口改札横)



カフェ・カンパニーの店舗

お客様や周辺の方々、店内の音楽やファッション、もてなしを通じて、それぞれのライフスタイル(生き方)を紡いでいけるように編集したものを提供したいと考えています。今は100マイルカフェプロジェクトという半径160kmの地域から集めた食材を活かした料理を提供し、単なる地産地消ではなく、食を中心とした生活文化の提案を進めているところです。

私が提案するスタイルの基になったのは小学生の頃、西戸崎の米軍基地近くに住んでいた時、米軍住宅の空き家に忍び込みポストや純銀の食器などに囲まれて漫画を読んでいた日々であり、その時の記憶が私の原風景となっています。修猷時代は思い起こせば、成績や部活(サッカー部)での怪我のことなど挫折の連続でした(笑)。ただ、その挫折感の中で、乗り越える術や耐性が育まれたと思います。このような原風景は大事な資産なのです。

昭和37年に母校を卒業した我々(修猷三七会)は、来卒業50周年を迎えます。既に福岡在住の同期生を中心に実行委員会が作られ、記念事業のための検討が行われております。

修猷三七会の関東支部には、現在130名弱の会員がおります。老後を故郷で過ごすため福岡に帰る人も少しずつ出ていますが、それでも同期の3割程度を擁する大所帯です。毎年1回の定例会には30名以上が集まります。常連も多いですが、卒業以来、あるいは何十年ぶりという人が毎回必ずと言ってよいほど現れます。このような場合、やはり誰でも初めはちょっと気後れするようですが、その懸念は忽ち杞憂となります。最初は誰かいな?というような顔で見ている人たちが、声の調子、顔の

学年便り

昭和37年卒

特徴、ちょっとした仕草から、お前か!と気づき、博多弁での思い出話に花が咲くことになり。僅か3年間の同じ校舎での生活、しかも在学中はほとんど知らなかった人も多いのに、何十年経ってもこの情景が失われないのを見ると、青春時代が一生の思い出に残ります。

前述のように、定例会は年一回でそう頻繁とは言えませんが、そこでの縁から、例えば「小田急沿線の会」のようなグループもでき、それぞれで親交を温めています。また、近年は同期の

四十路に近づいた頃でした。それまでは親しいもの同士がグループで集まっていたのですが、そろそろ東京修猷会総会の幹事学年のことも考える時期になり、三七会関東支部会を立ち上げた訳です。そういう意味で東京修猷会の恩恵は多大了。幹事学年をやらせていただいた総会が昭和の最後の年になったことも印象に残ります。

が東京修猷会の副会長を務めていることもあり、その総会には結構な参加があります。最後に、これを読まれた三七会の皆さん、今年も、そして来年の卒業50周年事業に向けて、よろしくお願ひします。

小野寺 夏生



卒業生の本

伊佐 裕(昭和44年卒)著

「和なるもの、家なるもの」伊佐氏が23年前に創業した高級注文住宅会社「伊佐ホームズ」日本古来の伝統の美を生かした家や、「家は住人の精神の鏡」という信念の下で、熱くこだわった唯一無二の家を造り続けていること有名だ。本書は同社の「名作」の数々を写真付きで紹介している。

▼金 正則(昭和48年卒)著
「1万人市場調査で読み解く ツイッター社会進化論」

同社誕生までの筆者半生記の章では、紆余曲折(禪寺修行)慶応大学(丸紅)を経て独立を決心する経緯が語られる。特に興味深いのは修猷時代。終生の師小柳陽太郎先生との出逢いが、3年時には美術部長ながらブロック長に選ばれた(この特別な注目のツイッターの世界に鋭く迫っている。

(朝日新書、735円)

会長便り

校内誌「修猷」の昭和41年号に笠信太郎さんが「若き同窓の諸君へ」と題した一文を寄せている。笠さんは大正7年卒。早くからリベラルな経済学者、思想家として注目され、修猷の先輩である緒方竹虎さんの勧めで30歳代半ば朝日新聞に入社、戦後の日本を代表する言論人として活躍した人だ。「編集部員N君へ」という手紙の体裁をとった文章は、かみ砕いて平易だが、内容は修猷館の校風や伝統を正面から論じていて興味深い。

笠さんは振り返って母校の motto を挙げれば「質撲剛健」だったと指摘し、一方でそれは饅頭でいえば皮の部分にすぎず、より肝心のアンコは「自由闊達」だと述懐している。万事が権威主義的で窮屈だった当時の世相の中で稀有ともいえる気風だったようで、藩校時代の卒業生

後にハーバード大に学んだ維新政府の元勳、金子堅太郎伯あたりにはその精神的ルーツがあるのではないかと考察を巡らせている。だとすれば、修猷にとっても自由闊達の風は戦後社会の俄産物というよりは、もともと根元が深いということになる。

さらに笠さんはこのような校風が、「やれ伝統とか精神とかいうボザティヴなことをいながらも、嫌でもみんなの気分に浸透しているものです」と、「右へならえ」式を戒めている。

この笠さんの一文を知ったのは、実は偶然がきっかけだった。がん関連団体の役員をしている私は、昨春秋千葉県がんセンター長である昭和41

笠さんとN君

東京修猷会会長 箱島 信一 (昭和31年卒)

なことは絶対不可能」と一蹴。あきらめきれずに長文の手紙を笠さんに出し、来福の笠さんをホテルに訪ねて直訴に及んで遂に寄稿の約束取り付けに成功した、という。書き出したN君はそのインシアルである。

当時、中川原少年はがんに命を奪われた父親のカキを討とうという気持と、修学年数が長い難関の医学部を目指すかどうかの狭間で悩んでいた。

修猷の精神的伝統や修猷魂を定義することは難しい。強いといえば人間の尊厳や独立不羈を中核に据えた精神の絆だろうが、大書にすればそれは難しい。笠さんが言う「気分の浸透」によって共有される皮膚感覚や空気みたいなものだから、その伝承には熱気や工夫が欠かせない。45年前の笠さんと中川原さんとの出会いは、そのことを私たちに教えている。今年も修猷という舞台で様々な人間的な交流と共感の輪が広がり、伝統が豊かに進化して行くことを願っている。



修猷女子最新事情

もっと知りたい!!

いまの修猷生——特に女子生徒を見ると、古いOBはまさに隔世の感を抱くだろう。彼女らの制服姿は、セーラーの六光星は変わらないものの、黒いハイソックスに黒いローファー(革靴)を履いて、首都圏の女子高生のように洒落ている。

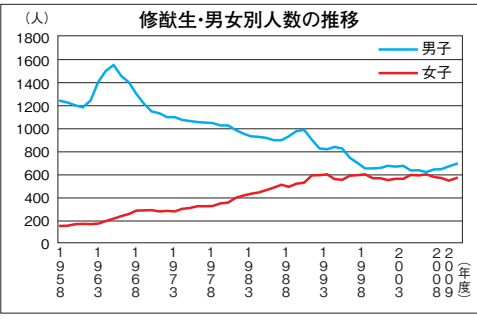
修猷館では現在、女子生徒は全体の半数を占めるまでになった。存在感を強めている修猷女子の最新事情を追った。

男クラ消滅!

現総括教頭の渡辺公利先生のご協力を得て、編集部では女子生徒数の推移を調べた。

男子校だった修猷館が共学化し、初めて女子が入学したのは1949年度のことだ。詳細な記録の残る58年度の女子生徒数は137人と、全校生徒1368人のわずか1割に過ぎなかった。

その後、女子の数は右肩上がりが増え、96年ごろからはほぼ半数を占めるようになった。その影響はクラス編成に顕著に現れた。96年度には「男クラ」が



消滅。その後は一部の年を除いてすべてが男女クラスとなっている。

「中学校で成績が優秀な女子の間で修猷の人気は抜群」(母親)。そんな背景の中、2004年度と06年度には女子の入学者が男子を上回った。

多くの優秀な女子が集結した結果か、05年度には初めて生徒会三役(総務・議長・監査委員長)すべてを女子が占めた。今や運動会で女子がブロック長を務めるのも珍しいことではないという。

女子ヨット部の活躍!

10年度の部活動でも女子の活躍が目立った。かつては男子部員しかいなかったヨット部と山岳部の女子部員が夏のインターハイへの出場を果たし、修猷関係者を大いに喜ばせた。

ヨット部女子は沖繩で開かれたインターハイで4位入賞。千葉県にも出場し5位入賞の「快拳」となった。編集部では、河内彩夏さんと森口史奈さんに話を聞いた。

須河内さんは小2のときからヨットのクラブチームに入っていたが、森口さんは「部活動紹介の体験試乗会がとて楽しかったから入部した」という。以前から体験試乗会があったが、昭和59年卒OGは「女子は海上での練習中にトイレが困るでしょ?」と言われて入部をあきらめました」と証言する。「時代が変わりましたね」とOG。

森口さんは「ヨット部は男子



女子エールはアイドル並みの人気

修猷なう

「修猷の男子についてどう思う?」と質問すると、須河内さんは「男に女は関係ない、すごい人はすごいし、頑張っている人は頑張っている...そんな人がたくさんいるので素晴らしい」と答えた。

自身の大会での活躍に関して「女子は出場者が少ないから圧倒的にライバル(しかも強豪)が多い男子のほうがすごい」と謙虚に語る。優れた友人たちに対する、気負いのない偽らざる言葉である。

修猷女子は変わったか?

なぜ女子の活躍が目立つようになったのか。女子の教自体が増えたこと、女性の社会進出など世の中の流れ...、いろいろな要因を指摘できる。現役の



女子ヨット部の須河内さん(左)と森口さん

「脅威はまったく感じない。女子には親しみを感じています」とコメントした。妙なことわりは持たず、素直にお互いを認めあう...修猷の自由闊達な校風は昔と変わらず、その中のびのびと能力を発揮する生徒がいる。男子にも女子にも、そのような修猷生像は今も健在であるようだ。

「修猷館が好きですか?」の問いにヨット部の2人は、少し考えてから「はい。先生が口や手を動かさず生徒たちで活動できるから」と答えてくれた。「男子の7ピラは好きですか?」には即答で「好



これぞ男! 5・7・5のピラミッド

きです!」と口をそろえた。運動会のような行事が大好きで、「気合い」という言葉を好む。このあたりは昔も今も変わらない。「修猷女子氣質」といえるようか。(昭和59年卒編集部)

卒業後四半世紀を過ぎた編集部の女子からみて、最近の女子事情はどう変わったのか? 「運動会」女子エール(チア)は本格的なファッションと踊りでアイドル並みの人気。当時は歌謡曲の替え歌を使うなど、素人っぽかった。

★【校則(服装)】現在は「パーマ、髪染め、化粧、ピアス」禁止。当時は「パーマと下駄履き」禁止。

★【校章】かつて校章は胸ポケットに付けたが、今はセーラーの襟に沿って付ける。今の女子は夏でも教室内クーラーからの防寒対策でカーディガンを着る。そんな時でも校章が見えるように工夫されたらしい。



校章は襟に沿って付ける

世界に羽ばたけ、修猷生

修猷館教諭 志戸田 弓子 (昭和53年卒)

2010年7月14日午後8時、「生徒海外派遣」に選ばれた12名が、6泊8日のアメリカ研修旅行から帰国し、無事福岡空港に到着した。第一声は「まだ帰りたくなかった!」

この事業は、95年、創立210周年の記念事業として、同窓会福岡本部からの支援金を、修猷館でなければできない形で生徒に還元したい、という当時の船津正明館長の考えを受け、「世界に羽ばたく修猷生」をキーワードに企画された。派遣先としてヨーロッパ、アジア等も検討したが、最終的には、世界の最先端に直接触れることで多くのものを得てほしいとの期待を込め、ニューヨークとワシントンDCへの研修旅行に決定した。15名の枠に150名を超える応募があ

り、優秀な生徒たちからどうやって派遣生を選ぶか、私も引率者の一人として頭を悩ませた。実際に現地に行ってみると、生徒が受ける衝撃は予想を上回るものであった。素晴らしい成果を得て、船津館長は支援の継続を同窓会本部に依頼した。当時の波呂喜代子同窓会事務局長、現地で温かく受け入れてくださった当時の水月文明米国修猷会会長をはじめとする多くの方々のご尽力のおかげ



藤崎一郎大使との記念撮影(アメリカ大使館にて)

で事業が継続し、同時多発テロによるヨーロッパ訪問への変更など紆余曲折を経ながらも、非常に充実した研修が行われてきた。これまでの13回で派遣生は160名を超えている。主な訪問先はニューヨークではOB勤務企業・国連本部・日本総領事館、ワシントンDCでは、日本大使館と朝日新聞アメリカ総局。加えて、ブロードウェイでのミュージカル鑑賞、メトロポリタン美術館やスミソニアン博物館群訪問、また現地学

厥の猷の確かさ



修猷館館長 亀岡 靖

明けましておめでとうございます。本年も修猷卒業生の絆がさらに強まり、東京修猷会がますます充実、発展されますことを心よりご祈念申し上げます。

昨年の7月、「東京研修」と称して、第2学年の生徒123名が大挙して上京し、双日(株)顧問の西村英俊氏(昭和36年卒)のご講演をはじめ、東京修猷会の多くの方々にお世話をいただきました。大学関係の方はもちろん朝日新聞社をはじめ12の企業や関係機関の方々にご指導いただきました。参加した生徒は、各方面の第一線で活躍してお

られる先輩方の姿や講話などから多くのメッセージを受け取りました。この機会に自分の進むべき方向を見定め自己実現を決意した生徒も少なくなかったようです。福岡の高校生は地元志向が強い中、修猷生が必ずしもそうでないのはこの東京研修の影響によるものです。東京修猷会並びにお世話をいただいた多くの卒業生の皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、在校する若い修猷生に共通するのは、他校生に比べて自立自主の気構えや態度が際立っている点です。これは伝統によって培われた修猷生独自の気質だと思えます。先日の館長講話でも本校の「不羈独立」に取って触れ、教職員や生徒諸君に本校

のよき校風の継承を促しました。本校教育が求めるものは、教師の細かい指示で動く生徒ではなく、自ら考え自ら行動する自立した修猷生の姿です。時には失敗を経験しながら、失敗から学ぶことや失敗を恐れず挑戦することの大切さに気付かせたいと思います。大らかで伸び伸びとした校風のもと、知性や徳性ととも心身の逞しい修猷生が育つことを期待しています。

青春を謳歌しながら勉学に励み、仲間と議論し、心身の鍛錬に励む修猷生の姿を見るにつけ、先達が積み重ねて来られた厥の猷の確かさを改めて感じています。今年も優秀な人材を引き続き修猷館から輩出するために精一杯努めて参ります。

2010年度寄付金

2009年11月1日から2010年10月31日までに多数の皆様からご寄付いただきました。ありがとうございます。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。(敬称略・卒年別)

また、年会費の納入をまだ済まされていない方は、同封の郵便振替用紙にてご送金くださるようお願い申し上げます。(一口3千円)。3千円を超えた額は寄付扱いとさせていただきます。

00170-6-172892 東京修猷会事務局

- (昭9)富田明徳、(昭11)橋本胖、(昭12)鎌田正行、(昭15)明石隆次、(昭18)不破敬一郎、(昭19)光安愛友、早野俊一、増田太志、田尻重彦、毛利昂志、(昭20)田中庸夫、野上三男、尾島成美、(昭21)稗田孝道、(昭22)伊藤輝夫、岡崎登、増崎昭夫、木下洋一、濱田理、(昭23)井上洋一、大西勇、田尻利重、白木彬雄、(昭24)安藏復也、(昭25)山本義治、(昭26)小西正利、常岡宏、太田進、大平修、中村道生、藤吉敏生、廣瀬貞雄、(昭27)金田久仁彦、甲木千枝、(昭28)兄玉黎子、(昭29)永井充子、高木道子、村越登、長野倬士、(昭30)喜多村寿信、久保久、原田雅弘、三串和道、堤正、(昭31)近藤徹、溝部信介、高崎洋一、城戸弘、倉員正子、村田和夫、中村保夫、箱島信一、(昭32)井上智晴、平野熙幸、野間正己、林克己、國分英臣、(昭33)河野理、高橋宏子、寺澤美和子、松永貴子、城みよ子、米倉實、(昭34)岩田龍一郎、行武賢一、讃井邦夫、川辺敬治、服部富美子、(昭35)伊藤洋子、羽立教江、可見晋、江川清、今村宏明、山口育利、松尾俊一、大村信太郎、藤野宏、(昭36)安藤誠四郎、宇山博藤、横倉稔明、光安哲夫、高村修一、山本博、手嶋宏治、西村英俊、倉成洋三、中島成之、添田栄一、田中直樹、土井高夫、(昭37)大須賀頼彦、(昭38)井上誠、上田茂、渡辺紀大、(昭39)貝島資邦、久保田康史、古賀宣弘、松本陸彦、清田瞭、(昭40)森秀則、泉和雄、棚町精子、由良範泰、(昭41)高尾義行、有山賢良、淀川和也、(昭43)伊豆安生、宮地徳文、(昭44)横田勝介、(昭45)赤松康親、本田由紀子、(昭46)鹿見島正信、森山幹夫、土肥研一、(昭47)塚本幸一、(昭49)井手富士雄、橋村秀喜、古森光一郎、大島光子、堀信之、本庄英智、(昭50)古賀隆太郎、野中哲昌、(昭51)油田哲、(昭52)江藤和実、寺岡隆宏、(昭53)村田隆信、(昭54)中原誠也、(昭55)家村伸一郎、(昭56)中島淳也、(昭58)井手慶祐、池上浩司、白水裕憲、(昭59)服部豊、(昭62)鎌倉靖二、田尻公一、(平1)畑礼子

2010年 二木会

- 第562回 H.22.1. 山崎 養世(昭和52年卒)
日本コアパートナー(株)代表取締役、
一般社団法人太陽経済の会代表理事
『新春 私の新しい日本の成長戦略』
- 第563回 H.22.2. 金岡 恒治(昭和56年卒)
早稲田大学スポーツ医学研究科准教授・医学博士
『スポーツ医学で腰痛予防!』
- 第564回 H.22.3. 佐藤 守(昭和33年卒)
軍事評論家
『沖縄米軍基地問題について』
- 第565回 H.22.4. 笠 浩史(昭和58年卒)
民主党衆議院議員
『民主党の今後の課題について』
- 第566回 H.22.5. 馬奈木 俊介(平成6年卒)
東北大学大学院環境科学研究科准教授
『待たなしの地球環境問題』
- 第567回 H.22.7. 赤羽 桂子(平成7年卒)
総合高津中央病院小児科医
『Where and why are 10 million children dying every year?』
—世界に貢献できる小児科医を目指して—
- 第568回 H.22.9. 荒木 尚志(昭和53年卒)
東京大学大学院法学政治学研究科教授
『雇用システムの変化と労働法政策の課題』
—非正規雇用問題を中心に—
- 第569回 H.22.10. 宮本 雄二(昭和40年卒)
前中国大使
『中国の現状と日中関係』
- 第570回 H.22.11. 小川 洋(昭和43年卒)
前内閣広報官
『総理官邸に勤務して』
- H.22.12. 忘年会 ※肩書・所属は講演時のもの

東京修猷会 URL <http://www.shuyu.gr.jp>



昨年6月、東京修猷会の新会長に昭和46年卒の土肥研一氏が就任した。土肥氏と4年間幹事長を務めた甲畑真知子氏(昭和44年卒)に、足元の課題や今後の運営方針を語ってもらった。

甲畑さんに伺います。特に印象に残ったことは何ですか。

甲畑 総会の参加者が年々増え、昨年は690人にも達したこと。それから、新しく文化企画の「サロン・ド・修猷」を2007年に立ち上げたことです。二木会は夜の開催で政治経済のテーマが多く、それ以外に興味がある方や夜参加が難しい方も参加してもらおうと始めました。女性で実行委員会を立ち上

新旧幹事長対談 距離の壁低くしたい

土肥 甲畑さんの人柄ですよ。アットホームな感じになった。——新幹事長に抱負を伺います。

土肥 甲畑さんの路線をどう発展させられるか。僕は「Be more ambitious」です。今の時代は、野心を持って新しいことに挑戦すべき。多少でも改革し、時代に合った高校同窓会の在り方を皆さんと議論してつくってきたい。

土肥 大学生とのつながりを考える課題があります。

土肥 若い人の参加が少ないという課題があります。

土肥 大学生とのつながりを考える課題があります。

土肥 大学生とのつながりを考える課題があります。

具体的を考えていることがありませんか。

土肥 年代の壁、距離の壁を低くしていけたら良い。現役の修猷生代表(例えば新聞部員)を東京に招待して同窓会活動の一端を知ってもらおうという案もあるし、二木会の講演を動画で会員や現役諸君が見られるようにするのも検討してはどうだろうか。在校生がそれを見たら、俺も政治家になろうとか、企業を経営

サポーターもしてあげたい。就職に限らずいつでも相談に乗るといふ先輩に手を挙げてもらってリストにする「登録制度」を検討します。あと、現役では女性が半数という時代を迎えた中で、同窓会活動も女性にもっと来てもらえるようにしていきたい。

——東京修猷会の魅力について、あらためて伺います。

甲畑 60年以上の歴史があつて二木会が営々と続いている。日本を背負って立つ一人の講演がとぎれないのは他校に例を見ないし、日本随一じゃないでしょうか。本当に誇れることですし、われわれはいつの間にかそういう空気を感じて、社会に対する使命感や気概をもっている。そんなことを実感しましたね。

土肥 日本の教育で欠けている年代間の「縦糸」をつなぐのが同窓会だ。普段、知り合いにならない人とのつながりができ、自分の生き方が豊かになる可能性がある。それが一番の魅力でしょう。皆さんにもぜひ実感してほしいですね。

執行部紹介

真砂新副幹事長(昭和55年卒) GOGO会の真砂千恵と申します。昨年より副幹事長を拝命し、サロン・ド・修猷と名簿を担当しております。世代を超え、ただけよう努めますので、どうぞみなさま、サロン・ド・修猷にいらしてくださいね。



◆土肥新幹事長のプロフィール 1951年、福岡市西区今宿町に生まれる。玄洋中出身。中学、高校を通じ野球部一筋。同志社大学法学部卒業後、東京銀行に入行。韓国の延世大学経営大学院に留学。ソウルとサンフランシスコの海外勤務を経て98年に退職。2002年に起業し、現在は株・善術商事という商社を経営。